

SUCCES 『杭基礎の震度法照査(H24)』

【 】: 道路橋示方書の編番号および章番号

(1) 鉄筋材質【IV4.3】

- 1) 材質の選択肢に高強度鉄筋(SD390, SD490)を追加しました。
- 2) 鉄筋の許容応力度が改定されたことに対応し、主鉄筋(軸方向鉄筋)とせん断補強鉄筋で別々の材質を設定できるようにしました。

(2) 杭基礎の安定計算【IV12】

- 1) 対応杭種に回転杭を追加しました。
- 2) 杭配置のフーチング縁端距離の初期値について、既製杭の場合、杭径の1.0倍(鋼管ソイルセメント杭の場合は鋼管径の1.0倍)としました。
- 3) 場所打ち杭の場合、仮想鉄筋コンクリート断面の照査を行わないようにしました。
- 4) 杭とフーチングの接合部の照査方法の改定に伴い、接合方法を方法Bとした場合について以下の対応を行いました。
 - ・仮想鉄筋コンクリート断面以外の照査を個別に行えるように選択スイッチを追加しました。
 - ・仮想鉄筋コンクリート断面の直径を杭径 D (鋼管ソイルセメント杭の場合は鋼管径) に $0.25D+100$ (mm) (≤ 400 mm) を加えた径としました。
 - ・仮想鉄筋コンクリート断面の照査を補強鉄筋の応力度により行うようにしました。
 - ・補強鉄筋のフーチング内への定着長を【IV7.8】式(7.8.1)により算出するようにしました。
- 5) 許容押し込み支持力算出時の周面摩擦力を考慮する範囲について、場所打ち杭工法、中掘り杭工法、プレボーリング杭工法及び鋼管ソイルセメント杭工法の場合、杭の先端から杭径分だけ上方の位置までとしました。
- 6) 最大周面摩擦力度を推定する N 値の下限を、「5未満」としました。
- 7) 土質定数の低減係数 DE の選択肢に 0 を追加しました。
- 8) 斜杭が設定された場合に負の周面摩擦力による照査機能を行わないようにしました。
- 9) 水平変位の制限を緩和する杭基礎の解析方法を変位法のみとしました。

<<用語の改定>>

以下の用語の改定に対応しました。

[改定前]	[改定後]
・杭とフーチングの結合部	→ 杭とフーチングの接合部
・バネ定数	→ ばね定数
・許容支持力	→ 許容押し込み支持力
・許容引抜き力	→ 許容引抜き抵抗力
・スターラップ	→ 帯鉄筋

以上